

経営比較分析表（平成29年度決算）

兵庫県香美町 公立香住病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	50床以上～100床未満	自治体職員
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	7	-	透訓	救輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
18,176	8,150	第1種該当	13:1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

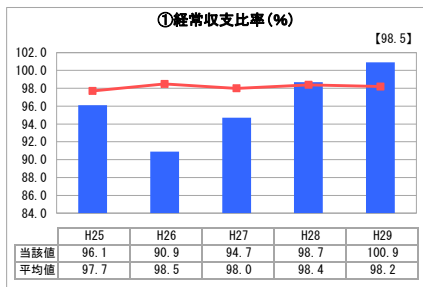
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
50	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	50
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般＋療養）
46	-	46

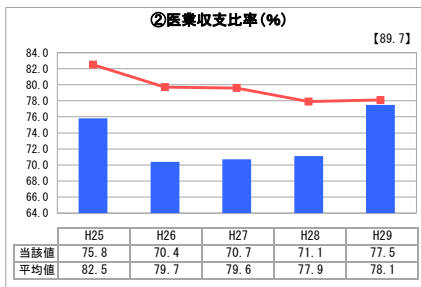
グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- [] 平成29年度全国平均

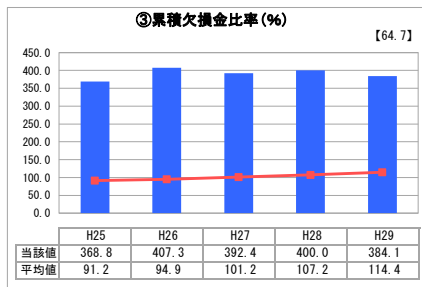
1. 経営の健全性・効率性



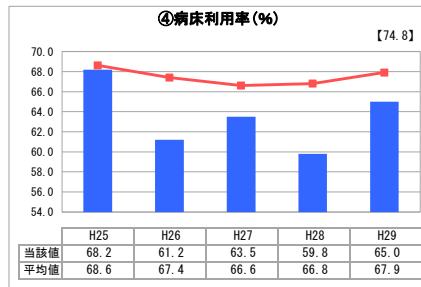
「経常損益」



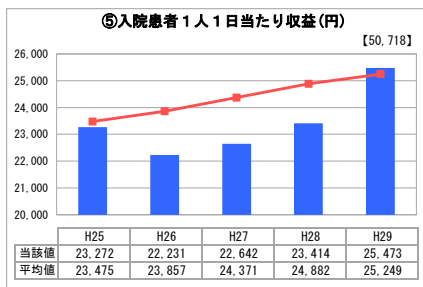
「医業損益」



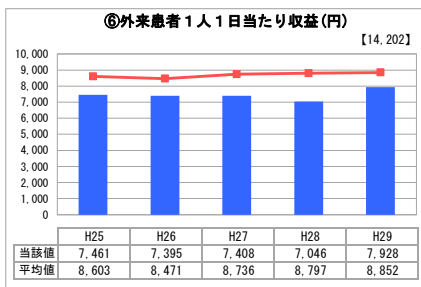
「累積欠損」



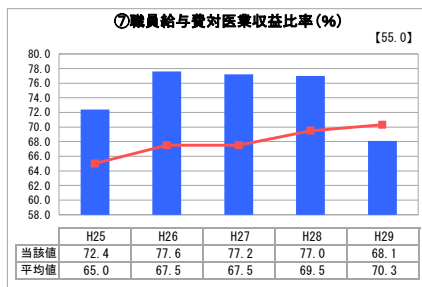
「施設の効率性」



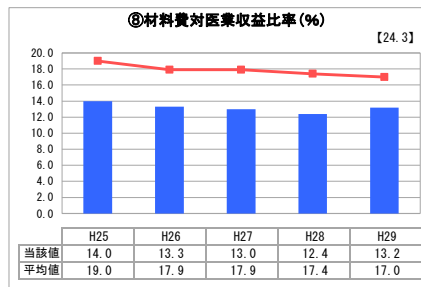
「収益の効率性①」



「収益の効率性②」

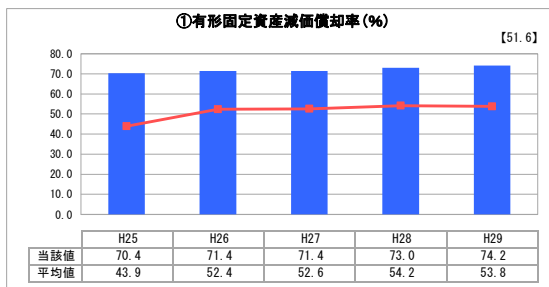


「費用の効率性①」

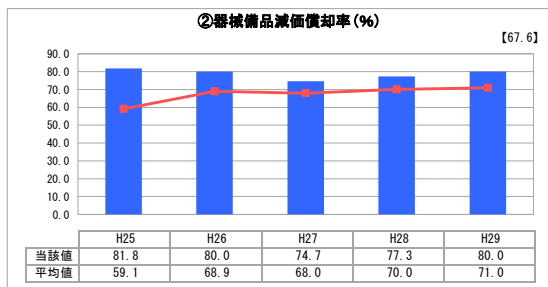


「費用の効率性②」

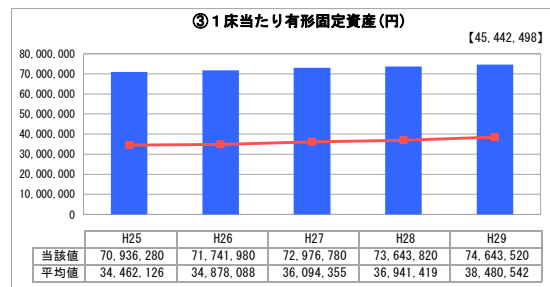
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「器械備品の減価償却の状況」



「建設投資の状況」

I 地域において担っている役割

香美町全体が過疎地域に指定されており、山間へき地・離島など民間医療機関の立地が困難な過疎地等における一般医療の提供を担っている。また、高齢化が進み、在宅復帰が困難な患者が増える予想されるため、在宅に向け十分なリハビリを実施することや介護老人保健施設、訪問看護等の在宅医療提供体制の充実を図ることで、地域包括ケアシステムを支える役割を担っている。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

平成29年6月から一般病床50床のうち8床を地域包括ケア病床として開設したことにより入院患者が増加したため、近年では平成25年度に次いで高い病床利用率となった。

また、収入では入院収益が増加したこと、費用では嘱託医師の退職及び退職手当組合納付金の負担率が下がりに給与費が減少したことで、前年度と比較して医業収支比率は増加し、職員給与費対医業収益比率は減少したためどちらも類似病院の平均値に近づいた。

なお、過疎地の医療を守る観点から赤字に対する一般会計からの補助金（繰出金）を受けている結果、経常収支比率が平均値を上回った。

2. 老朽化の状況について

平成3年に建設した病院本館は、すでに27年が経過しており老朽化が著しくなってきた。建物と共に整備した医療機器、器具備品等も同様に次々と更新時期を迎えている。

有形固定資産及び機械備品の減価償却率はともに平均値を上回っているため、計画的な老朽化対策が必要となっている。

また、1床当たり有形固定資産は平均値の2倍近くとなっているが、これは病院本館の建設時から比べて病床数を半分に減らしたことからによるものである。

全体総括

経営の健全性を表す経常収支比率や医業収支比率、患者1人1日当たりの収益などは前年度（平成28年度）と比較して改善したことで、類似病院平均値に近づいている。

しかし、当院は類似区分の50床以上100床未満の中でも50床と最小の規模であるが、累積欠損金比率は全国及び類似病院平均から大きく離れており、病床利用率も類似病院の平均にまで至っていません。決して良いとは言えない経営状況である。

このため、公立香住病院新改革プランを着実に実行することにより、今後も更に経費節減、増収対策等の経営改善を行い、住民により良い医療サービスの提供に努める。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。